

# 1 「コロナ禍における国際学部の取り組み」

## COVID-19 による学生生活への影響と支援ニーズ

—国際学部学務委員会によるアンケート調査より—

高橋若菜

**趣旨：** Covid-19感染拡大防止のためにキャンパスが閉鎖されオンライン授業へと切り替わる中で、2020年4月以降の学生の生活実態を把握し、支援策に向けた基礎資料とするために、3度アンケート調査を行った。第1回調査はオンラインアンケートツール SurveyMonkey、第2・3回調査には教育オンラインツールC-Learningのアンケート機能を利用した。

**調査主体：** 国際学部学務委員会（重田康博委員長、高橋若菜副委員長、清水奈名子教員、スエヨシ・アナ教員）

### 1) 学生のネット環境・意識調査

**調査時期：** 2020年4月6-20日

**調査内容：** 手持ちの媒体の所有状況（PC、タブレット、スマートフォンなど）、インターネット回線の種類や容量、オンライン授業に対する考えを確認し、支援が必要な学生や、その支援ニーズを特定した。

**回答状況：** 1年生71名、2年90名、3年91名、4年99名、院生他25名 計376名

**調査結果と支援策：** 大学のPC使用希望者16名、ネット環境弱者34名などを特定し、国際学部所有のPC貸与など、学部独自の支援策へとつなげた。

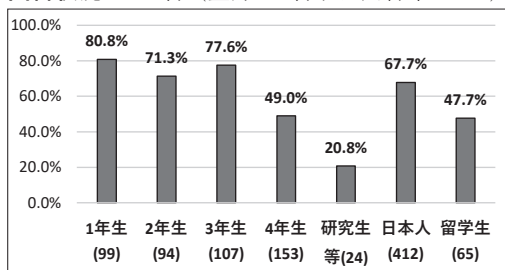
### 2) COVID-19による学生生活の影響と支援ニーズ調査

**調査時期：** 2020年5月2-13日

**調査内容：** 現在の住まいや今後の予定、アルバイトの状況、収入変化や給与減額幅、実家か

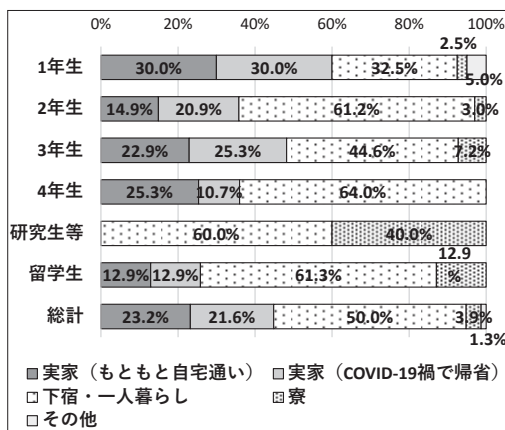
らの支援、今後の見込み、生計を立てる困難度、休学・退学の意向、学習環境の問題点、留学や就職への影響、外出の頻度、体調や心の変化、支援ニーズなどに至るまで包括的に質問し、学部独自や全学支援策へとつなげた。

**回答状況：** 310名（登録477名中、回答率65.0%）



### 調査結果

#### ①現在と今後の住まいについて



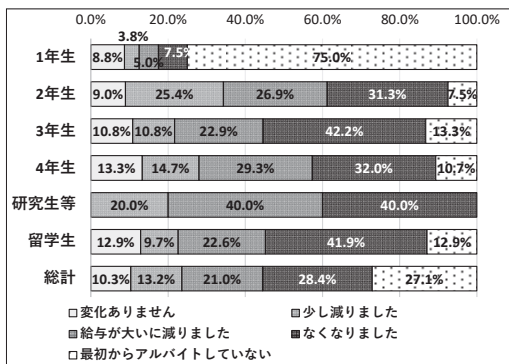
✓半数は一人暮らしで、実家住まいは、全体では4割強、新入生は6割だった。うち約半数はCovid-19禍のための帰省であった。留学生や研究生は一人暮らしや寮が多い。

✓一人暮らしを続ける理由は、いつ授業が始

まるかわからない、家族に感染させたくない、帰省する際に交通手段や感染リスクがある、などが挙げられた。

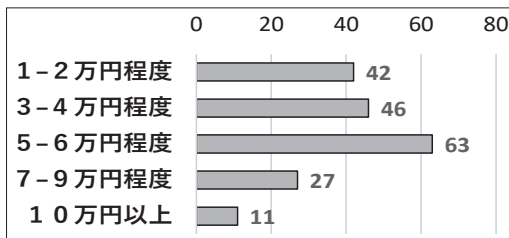
✓逆に、実家などに滞在し、宇都宮に戻れないケースもあった。緊急事態宣言による外出自粛や、交通手段、移動中の感染リスクなどが理由として挙げられた。

### ②収入（アルバイト）の変化



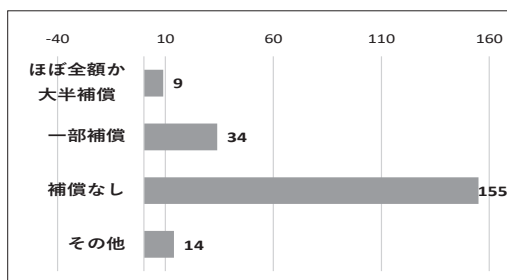
✓2年生以上では、約9割の学生がアルバイトをしていた。収入減にならなかった学生は1割程度に過ぎず、大半は収入減を経験し、もしくは収入を失った。

### ③減額の幅



✓日本人学生の約6割、留学生の約7割が減額を経験した。減額平均は4.6万円、留学生は5.2万円。月額5-6万円以上の減額幅は101名に上った。

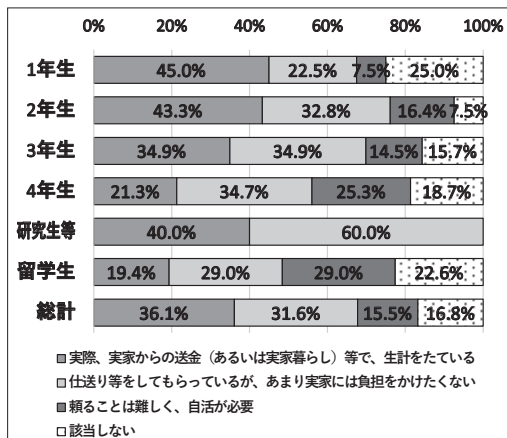
### ④減額の場合の補償の有無、アルバイトの再開見込み



✓給与減額分のうち、全額補償があったのは212人中9名（4.2%）とごく一握りで、一部補償は34名（16.0%）。155名（73.1%）は全く補償がなかった。補償がない学生の割合は、日本人（半数近く）より留学生（約6.5割）が高く析出された。

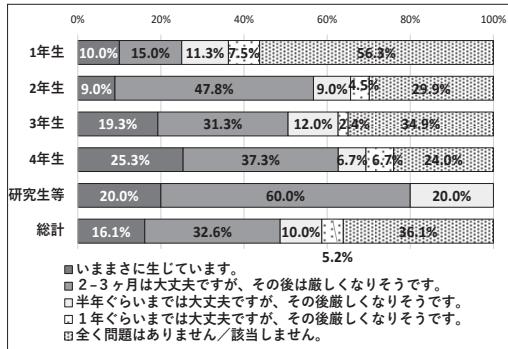
✓アルバイト再開見込みは大半（186名）がなかった。

### ⑤実家からの支援



✓実家からの送金により生計を立てている割合は36%で、あまり実家に負担をかけたくない、自活が必要との回答も半数近くあり、特に留学生に多かった。

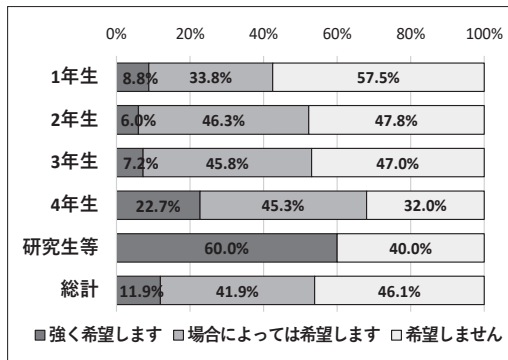
### ⑥ 生計を立てる困難度



✓ いままさに生計困難に直面する学生が全体で16.1%、50名にのぼった。2-3ヶ月後は32.6%、101名であった。問題がないと答えているのは、1年生が半数で、他の学年では3割前後だった。

✓ 留学生、研究生で困難度が高く、アルバイトや収入においても厳しい状況にあるとする上述の調査結果と符合する。

### ⑦ 授業料猶予の希望、休学・退学の検討

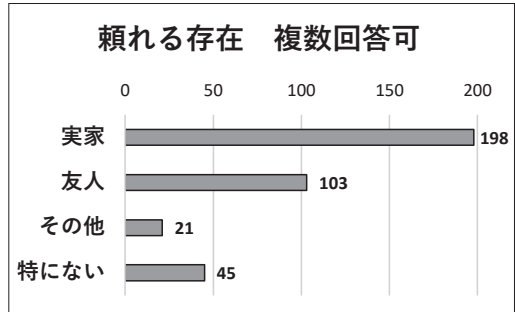


✓ 学生全体の半数以上が、支払い猶予を希望した。突出して多いのは研究生で6割が支払い猶予を「強く希望」した。コメント欄でも「減免」を求める声が多く見られた。

✓ 金銭的理由による休学を考えている学生は5名、うち日本人2名、留学生3名おり、その他の理由で休学を考えている学生は11名、うち日本人10名、留学生1名であった。その他の理由には、学修上の理由、留学との関係、就職との関係などが挙げられた。

✓ 金銭的理由で退学を考えている学生は2名おり、2名とも留学生であったが、コメントとして「退学はしたくないです」とあった。

### ⑧ 体調を崩した際の頼れる存在の有無



✓ 実家を頼れるとの回答は54%、1年生が6割強と高く、研究生や留学生は低い。

✓ 実家に頼れないとした多くの研究生は、友人を頼れる存在としてあげている。

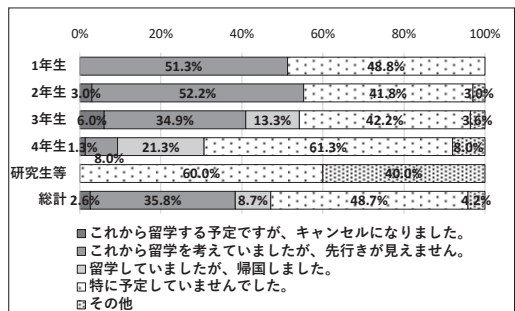
✓ 頼る所のない学生は、各学年に1-2割ほど存在した。

### ⑨ 学習環境の困難

✓ 文献入手が困難との回答が110名と多かった。

✓ 教科書の未入手も日本人1.5割、留学生に1割にのぼり、Wi-Fiの不安定さについても、47名が困難と回答した。PCを有していない学生は、5名いた。

### ⑩ 留学への影響



✓ 留学から帰国した学生は3-4年生に多く、4年生の5人に1人が該当した。1~3年生の半数が、留学を予定していたが、先行きが不透明となっている。

### ⑪就職活動への影響

✓進路や就職への影響は、3年生が3.5割、4年生に至っては6割強。高学年の深刻度の高さが窺える。

### ⑫外出の頻度

✓毎日2-3回外出する人は一握り(3名)いるが、1日に1回程度は17%、半数は2-3日に1回、27%が1週間に1回程度となっている。大半は、感染リスクを下げるために、自宅に閉じこもっている様子が窺える。学年による差異はほとんど見られない。

✓外出目的の大半は、食料品や薬品など、生活用品の買い出しのためである。アルバイト・仕事のための外出も1.5割近い。一方、気分転換となるような友人との外出や訪問、散歩などは4割弱の学生しかできておらず、自宅に閉じこもっている学生が多いことが改めて裏付けられた。

### ⑬体調の変化

✓友人関係が希薄になったと回答する学生が162名。

✓経済的不安を強く持つ学生が110名。

✓体調が悪くなる学生が57名と析出された。

✓精神的な疲れ・ストレス生活リズムの崩れ、一人暮らしの寂しさ、外出できないこと他が自由記述で語られた。課題の多さへの悲鳴も上がっていた。

### ⑭支援ニーズ

✓アルバイトの機会(学外14.1%、学内外12.1%)が最も多く、奨学金などの情報提供(10.6%)、学修イベント(SDGs映画会8.7%)と続いた。

✓留学生の中では、言語や手続きなどの留学生支援が13.4%と最も高く析出された。

### 学務委員会等における支援策への接続

✓学内におけるアルバイト機会の、困窮度高い学生への優先的提供(学務委員会、高橋研究室、飯塚研究室他、述べ14名)。

✓C-Learningにおける支援専門ページの解説と、奨学金等に関する継続的な情報提供。

✓教員間でのアンケート内容の共有と、指導教官によるヒアリング。困窮度の高い学生への個別相談・支援への接続。

✓学修イベントとして、オンラインSDGs映画上映会の連続、留学オンラインセミナー、就職イベント開催等。

### 3) 国際学部による学年別総合アンケート

調査時期：2020年7月16日-9月16日

調査内容：毎年実施している総合的な調査の一環で、大学による支援策の利用状況や満足度、オンライン授業への満足度等について質問した。

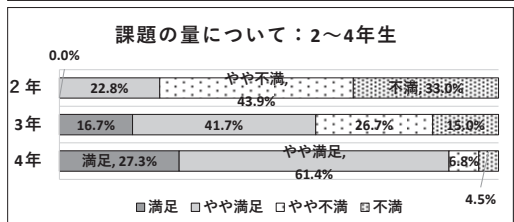
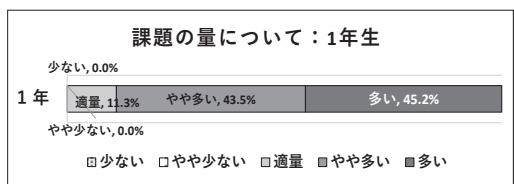
回答状況：1年生63名、2年60名、3年61名、4年44名、計228名

### ①大学による学修環境・オンライン教育への満足度

✓メディア授業の満足度については、ZOOMやWebexなど(72.6%)>PDFと音声ファイル(53.2%)>PDFなどの資料のみ(38.3%)の順番で、満足度が高かった。

✓図書館利用については、利用率が1年生は4割、4年生は8割近くと学年が上がるほど利用率が高かった。ほぼ半数が満足、1/4が不満があると回答した。

✓課題の多さがいずれの学年でも指摘された。



## ②大学からの支援への満足度

✓大学からの学生支援について（PC貸与など）：1年生は1/4、4年生は半数近くが利用し、そのうち8割程度が満足と回答した。

✓学生支援団体による支援（新入生歓迎会や留学説明会など）については、1年生の利用率が75%と4年生は45%程度だった。8割以

上が満足と回答した。

✓教員による支援は、1-3年は5割程度、4年生は6割以上利用しており、9割近くが満足と回答した。

## 支援策

✓教員側で情報共有し、オンライン授業や学生支援の質向上を図った。